

【授業実践の振り返り】 国語（光村）4 年 「誰もが関わり合えるように」

時 限	内 容	活 動	有効であった点	改善が必要と思われる点	子どもたちの反応
1	学習課題をつかむ	くめあて＞ 身の回りの「だれもが関わり合えるように」なされている工夫について知り、自分なりの課題を決める。 ①教科書 114 ページの写真や身の回りのだれもが関わり合える工夫をしているものの写真を見る。 ・信号 ・盲導犬 ・スロープ ・手話のニュース など ②教室の各コーナーにステーションを設置して体験活動をする。 ・アイマスクをして疑似体験をする（折り紙） ・点字を体験する（本や資料を実際に触ってみたり、点字で自分の名前を書き表す） ・英語や日本語の手話を体験する。 ③体験後に、その感想やほかにも身の回りの生活の中での工夫があるかどうかを発表する。 ・お年寄り、子ども、妊婦のための工夫 ・ユニバーサルデザイン ④体験や友達の発表などから自分の課題を決め、ワークシートに書き込む。	・4つのステーションで行う「疑似体験」がとても有効であった。子ども達が生き生きと取り組んでおり、調べ学習の課題を決定するのに、興味をもって取り組むことができた。やはり実体験が伴う学習は、子どもたちが主体的に取り組める。 ・教師が示したユニバーサルデザインについての資料が豊富だったので、子ども達の課題選びの手助けになった。それにより子ども達が自分たちの知らないことを知ることができ、課題選びの選択肢が広がった。自宅で日本語による調べ学習が困難な子ども達は、これらの参考に自分が調べる課題の候補を時間内に決めることができた。	・4つのステーションの説明を口頭だけでなく、視覚的に図なども使ってすると更に分かりやすかった。 ・「折り紙ステーション」で全員が「犬」を折るようにしたが、折り方が簡単すぎたので、アイマスクをしていても、していなくても簡単に折れてしまった。もう少し複雑なお題（例えば、鶴など）にした方が、目が見えないことの苦労さが体験できるたように感じた。 ・「手話コーナー」の動画を iPad で見せたが、画面が小さくて見にくかったため、大きめの画面で再生した方が子どもたちには分かりやすくて良い。 ・ワークシートの書く欄が狭かったので、調べる課題を書く際に、点字、盲導犬、手話など単語のみで終わる子が多く、机間巡視の際に詳しく書くように指示する必要が出た。	・4つのステーションで、とても楽しそうにそれぞれの活動に取り組んでいた。 ・「手話ステーション」で覚えた手話を積極的に使っている様子が見られた。 ・「点字ステーション」では、濁点や伸ばす音など五十音以外の特別な表記の名前の児童も自分で資料を探し出して自分の名前を点字で書き表したり、「家族全員分の名前を書きたい。」など、積極的に活動に取り組めた。 ・国語の授業はどちらかというと嫌がる子供が多いが、本時の後はもっとやりたい、授業時間が短く感じたと感想を言う子もいた。
	家庭学習	自分の課題について調べ、短い言葉や文でカードに書く。調べる際に、発表のことを考え、説明をわかりやすくするための写真や絵、図などがあると効果的なことを知る。	・自分一人で日本語の文章を書くことが困難な子ども達は、家庭で助けてもらいながら色カードを仕上げることができた。	・説明をわかりやすくするための写真や資料を使う子ども達と使わない子ども達がいたので、もう少しこちらに関しても協力を家庭に求めるべきであった。	・保護者へ協力の依頼メールをしてあったので、ほぼ全員が色カードを書くことができた。これが、次時の課題（発表原稿を書く）にスムーズに繋がった。

時 限		活動	有効であった点	改善が必要と思われる点	子どもたちの反応
2 3	中心を決め、構成を考え、記述する。	くめあて＞調べてきたことを整理して、自分が一番伝えたいことを決め、発表原稿の構成メモを仕上げる。 ・教科書の例文をもとに文章の構成を学ぶ。 ・宿題のカードを整理して、中心となる事柄を決める。 ・ワークシート上に、メモを並べ、構成メモを仕上げる。 ・構成メモをもとに、発表原稿を書く。	・構成表のワークシートは、はじめ中終わりを意識した内容のものを毎回記述の際に使用しており、今回はそれを発表原稿用に少し手直したものを使用した。その構成表に宿題で書いてきた「調べ学習の内容」の色カードを授業中に構成表に並べたことで、その後の発表原稿の記述活動をスムーズに行うことができた。	・「初め」の部分に「呼びかけ」を入れるための指導の工夫が足りなかったため、机間指導の際に個別に指導をする必要があった。 ・家庭では保護者の協力を得られる利点はあるが、保護者がほとんど書いてしまうケースもあるので、自らの力で書く活動の時間を取るような工夫が必要だと感じた。	・クラスみんなが書いているので、「自分もがんばらなくては！」と頑張っている姿が見られた。
	家庭学習課題	原稿を仕上げて、発表練習をする。発表の内容をうまく伝えるための絵や写真などの資料の効果的な見せ方についても考える。	・発表をする時に気を付けたいこと（間をおく、ここを強調する、ここで資料を見せるなど）の書き込みをさせたので、それがクラスでの発表に生かされていた子ども達もいた。	・保護者巻き込み型の自宅練習を想定していたが、夏休み明けから毎月一回の割合で記述のプロジェクトが続き、保護者の関心が薄れている家庭もあった。 ・発表の原稿を読むことが初めてにもかかわらず、発表時間が3分と長かったので、1分ぐらいにすればどの子どももっと積極的に練習に取り組んでいたように感じた。	・発表原稿をすらすら読めるよう練習を何度もやったことがうかがえる児童もいた。

時 限	内容	活動	有効であった点	改善が必要と思われる点	子どもたちの反応
4	発表	くめあて＞伝えたいことがはっきりわかるように発表をしたり、友達の発表の良いところを見つける。 （話し手）視線、声の大きさ、読む速さなどに気を付けて発表する。 （聞き手）話し手の伝えたいことは何かを聞き取ったり、発表の良い点を見つける。	・聞き手の数を徐々に増やしていったので、発表が苦手な子ども達でも、緊張しすぎることなく、少しずつ発表すること慣れていくことができた。 ・クラス全員の前でなく、少人数の前で発表することで緊張せず、楽しく発表出来ていた。 ・発表するたびに友達から丸をもらったり、よいところを書いてもらうことにより、次の発表の励みにもなっていた。	・聞きながら記入する「振り返りシート」の項目は少なめの方が、友だちの発表を聞くことに集中できてよい。	・友だちの発表を聞くときに記入する「振り返りシート」を書くことに忙しそうで、きちんと発表自体が聞けていなさそうな子ども達もいた。 ・初めは一人、次にグループと段階を踏んで聞き手を増やしたので、家庭で練習する際の不安が薄れ、できたことに対して達成感を感じたと振り返りのワークシートに感想を書いている子どももいた。 ・発表に意欲的な子供の中にはグループ発表だけでは物足りず、クラス全員の前で発表をしたいという子もいた。